

点検記録・作業チェックシートの電子化の取り組み (現場作業のデジタル化整備)

2023年11月6日

書類(記録)の電子化の推進について

○目的

- ✓ 書類の電子化については印刷・保管コストの問題、環境への配慮の観点等から政府主導で社会的に進められている状況。
- ✓ 原子力部門においては、エビデンスの重要性と品質保証の観点から紙媒体による書類(記録)の審査・承認が行われ、紙媒体を原本として大量に保管している。
- ✓ 一方で、紙媒体は、紛失等のセキュリティリスク、検索性・視認性の悪さ等による品質低下、ルールの強化等による記録採取の増加による作業効率の低下に繋がる可能性も考えられる。
- ✓ 原子力事業の継続的な運営において、書類(記録)の電子化は今後、取り組むべき重要な課題として認識している。(協力会社からの要望も非常に多い。)

○電子化を目指す書類のイメージ

- ✓ 記録(工事関係書類)の電子化には、「①作成の電子化(ワープロで作成)」「②協力会社承認の電子化」「③協力会社と当社の書類授受の電子化」「④当社承認の電子化」の4つの電子化ステップがある。
- ✓ 当面は、「①作成の電子化」に取り組む。

書類	①作成の電子化	②協力会社承認の電子化	③書類授受の電子化	④当社承認の電子化
安全作業指示書	電子で作成可能			
作業計画書	電子で作成可能			
工事報告書	工事記録・サインを手書	各社にて書面に捺印	協力会社と関電にて書面での授受	当社にて書面に捺印

2023年度試運用～2024年度本格運用

必要により以降検討(通信環境・システム整理等が必須)

- ✓ 電子化によるメリット、デメリットを評価し、追加で必要な対策を講じたうえで、試運用を行う。
- ✓ その結果を踏まえ、社内ルール等の改正を経て本格運用を開始させる予定。